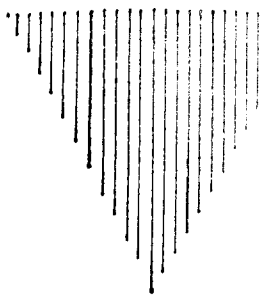
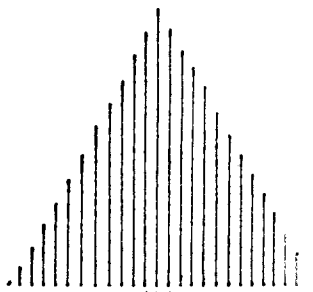


日汉双解惯用语词典

上海三联书店



日汉双解惯用语词典



廖宪群 ● 等译编

【上海三联书店】

(沪)新登字117号

责任编辑 周启明

封面设计 桑吉芳

日汉双解惯用语词典

殷宪群等译编

求知书刊社编辑

生活·语言·新知

三联书店上海分店出版

上海绍兴路5号

新华书店上海发行所发行

上海群众印刷厂印刷

1992年1月第1版

1992年1月第1次印刷

开本: 787×1092 1/32

印张: 21.625 插页: 5 字数: 600000

印数: 1—4600

ISBN 7-5426-0573-9/Z·45

定价: 23元

前 言

本辞典是以仓持保男和阪田雪子两位先生编著的《必携惯用语辞典》为蓝本译编的，是一部简明的日汉双解惯用语辞典。可供日语专业学生和广大日语学习爱好者使用，也可作为翻译工作者和日语教师的参考书。

在日本，仓持和阪田两位教授长年站在日语教学的第一线，尤长于教外国人学习日语，积累了丰富的教学经验，是著名的语言学家。他们选录的惯用语都是日常广泛使用着的，既是日语惯用语中的精品，又是学习日语的人特别需要掌握的。

日语中，惯用语是由两个以上的词用固定搭配的形式结合而成、脱离字面意义而从整体上表述某一概念的复合语言单位。惯用语是日语中极其活跃的部分，学会使用它，不仅能使语言表达得更加生动、寓意深刻、富于日语味，而且有助于加深理解他人的谈话、文章所表达的思想感情，不致造成误解。正因为如此，对学习日语的人来说，正确地理解与掌握惯用语既是困难的，又是必要的。可以说，没有掌握惯用语就没有真正学好日语。

这本辞典与同类辞书比较有以下特点：1. 不单是惯用语本身的日汉对译，而且对惯用语的原意、转意和用法等，都以日汉双解的形式予以说明，便于读者深刻理解惯用语的含义，掌握其用法。2. 每一惯用语都附有典型的例句，可从中领略日语惯用语的特殊韵味。

高少萍、傅霞俩同志参加了本书的部分译编工作。王光辉

同志对全书的译编作了过细的审订。

限于译编者的水平，本书的译编工作一定存在不少缺点，甚至错误，恳切地希望专家、广大读者不吝赐教，提出宝贵意见。

殷 宪 群

1991.6.30

凡 例

1. 条目 本辞典收录的常用惯用语3500余条，按五十音顺序排列。

2. 释意 对每一惯用语的含义，都给以简明扼要的说明。部分惯用语的释意分两部分：《 》内的，是该惯用语的语源或本义；接着是该惯用语的一般含义。

3. 举例 一个惯用语因使用场合不同，其含义也往往不止一项，但例句只限一个，用以说明其一般含义。

4. 类语 与条目中的惯用语具有相似意思的词语，即同义词，在例句后列出，以[类]示之。这类词语与对应的惯用语在意义上大致相同，不另加说明和举例。另外，与条目中的惯用语表示同一意思，但构词上稍有差别的类语，用[]括起，紧接在对应的惯用语之后列出。

如：^{えび}海老で^{たい}鯛をつる〔亦略为“海老鯛”〕

5. 自动词、他动词短语 与条目惯用语相对应的自动词、他动词短语，在例句之后列出，以[自]、[他]示之。

如：^{あかし}証を立てる…… [自]証が立つ
足が出る…… [他]足を出す

但是，像“愛想が尽きる”和“愛想を尽かす”则是作为类语（同义词）看待的，并不把它们看作是由自动词、他动词构成的相应词语。

6. 反意语 与条目中的惯用语相对应的反意语，在例句

后列出，以[反]示之。

如：受けがいい……[反]受けが悪い

7. 参照其他条目 以→的表示应参照的其他条目。

あ

ああ言えばこう言う 强词夺理。讲蛮理。人家说东他说西。顶撞。顶嘴。

いろいろと理屈を並べ、相手の意見に素直に従おうとしない様子/探出种种理由，不想虚心地听取对方意见的样子。

[例]まったくこの子にはあきれたね。ああ言えばこう言うで、少しも人の言うことを聞こうとしないのだから/讲蛮理，一点也不愿听别人的话。真拿这孩子没办法。

愛敬あいきやうを振りまく 到处卖好。讨人喜欢。逗人喜欢。对谁都笑容可掬。对谁都表示好感。

だれかれの区別なく、周囲の人々に明るくにこやかな態度で接する/对周围的人，不管是谁，总以爽朗而和蔼的态度相待。

[例]いつもは威張っているあの男が、今度の選挙に立候補するためか、今日はやたらに愛敬を振りまいている/那家伙平常摆出一副臭架子，可如今见谁都面堆笑容，可能是为了要在这次选举中当候选人吧。

合言葉あいちごばにする 作为(行动)口号。

仲間同士の結束を図り、行動の目標を明確に示すために、自分たちの主義・主張を端的に表わした言葉を掲げ、その実践に努める/为谋求伙伴间的团结一致和明确行动目标，用一句话鲜明地表现其纲领、主张，并努力付诸实践。

[例]民主主義を合言葉にしてきた戦後政治も、最近是一个の転換期に差しかかってきたようだ/以民主主义为口号的战后政治，最近似乎也面临着一个转变时期。

愛想あいそが尽きる〔“あいそ”亦读“あいそう”〕 厌弃。嫌弃。厌恶。不答理。

いくらこちらが好意を示しても一向に通じない相手の態度にあきれ果て、もう相手にするのはやめようという気持になる/不管自己

怎样表示好意，对方总不予响应。为此而惊讶不已，变成不愿再理睬对方的心情。

【例】分からずやのあの子には、もう愛想が尽きた / 那孩子实在不懂事，讨厌透了。

【类】愛想を尽かす

あ **くち** **ふさ**
開いた口が塞がらない 张口结舌。瞠目结舌。目瞪口呆。

あまりのひどさに、あきれ返っている様子 / 因情况太严重而惊愕不已的样子。

【例】あまりのばかさかげんに、開いた口が塞がらなかった / 他那傻气劲儿，真要吓死人啦。

あいづち **う**
相槌を打つ 帮腔。随声附和。接话碴儿。不住地点头称是。连连点头表示同意。

相手の話を聞きながら同感の意を表わしてうなずいたりする。また、相手の話に調子を合わせる / 一边听着对方的话，一边点头表示同感；或随和着对方的话去说。

【例】相槌を打ちながら、熱心に話に聞き入る / 不住地点着头，热心地倾听着对方的话。

あい **て** **い**
合の手を入れる 助兴。喝彩助兴。

《邦楽で、唄と唄との間に楽器の演奏を入れる意から》他の人の話の間に、それを調子づけような掛け声などを差しはさむ / 《日本戏曲中各唱段之间乐队演奏的过门》转意为在别人讲话中间插进打气助威的叫好喝彩声。

【例】聴衆が合の手を入れるのに気をよくして、演説に一段と熱が入る / 受到听众喝彩的鼓舞，演讲更加起劲了。

あい **むら**
愛の鞭 从爱护出发而采取的严厉管教态度。

相手の将来に対する思いやりから、涙を吞んで、あえて厳しい態度に出ること / 出于对对方前途的关怀，强忍着眼泪，不得不采取的严厉管教态度。

【例】あの学生を停学処分にしたのは、教育者としての愛の鞭だ / 给予那个学生停学处分，是出于教育工作者对学生的严格的爱心。

合間を縫う あいまぬ 利用空隙(时间)。见缝插针。插空(子)。抽空。

仕事などの合間のわずかな時間を利用して何かを行なう/利用工作中稍许空闲时间做某事。

[例]仕事の合間を縫って、二か月ぶりに床屋に行ってきた/两个月没有理发了,今天利用工作空闲插空去了理发店。

阿吽の呼吸 あうんこきゅう 摆好架势。运气。做好准备。配合默契。

《“阿吽”は出す息と吸う息の意》相撲の仕切りなど、二人以上が一緒に何かをする時、互いの気持がぴったり合うこと/《“阿吽”为呼气、吸气的意思》相扑(开始前)摆架势(运气),或两个人以上一起做某事时彼此心气相通,动作协调一致。

[例]阿吽の呼吸が合って、両力士が同時に立ち上がった/两力士一起运着气,摆好架势便站起来交手。

青息吐息 あおいきといき 长吁短叹。一筹莫展。束手无策。

《“青息”は青ざめた顔をしてつくため息の意。“吐息”は語調を整えるためのもの》困難な状況から抜け出さうまい策が見いだせず、弱り切っている様子/《“青息”为面色苍白唉声叹气的意思。“吐息”亦是叹气,在此有调整语气的作用》由于找不到摆脱困境的良策而一筹莫展,困窘不堪的样子。

[例]年末なのに資金繰りがつかず、青息吐息だ/年关已到,资金周转尚无着落,真急煞人。

青くなる あお 面如土色。面色煞白。大惊失色。

顔から血の気が消えうせる意で、何かにひどく驚いたりおびえたりする様子/面无血色的意思。因某种原因十分惊恐的样子。

[例]チンピラに絡まれたが、一喝したら青くなって逃げて行ってしまった/小阿飞来纠缠,大喝一声,吓得他面无人色,拔腿跑掉了。

青写真を描く あおじやしん えが 勾划蓝图。制定规划。

《青写真が設計図に用いられることから》将来の計画を立ててみる/《“青写真”系设计中使用的蓝图》转指制定未来的计划。

[例]頭の中にはすでに定年後の青写真が描かれている/ 头脑中已勾划好了退休后的蓝图。

青筋を立てる 怒形于色。(气得)青筋暴露。(气得)青筋直蹦。

額に静脈の青い筋を浮き上がらせる意で、ひどく怒って、けわしい表情になる様子/ 额头上暴出青筋，十分气愤，表情严峻的样子。

[例]額に青筋を立てて怒る/ 气得青筋直暴。

青田買い 买青苗。学生毕业前订录用合同。

《戦前、米穀商が農家を相手に稲の取入れ前に収穫高を見越して行なった先買いの意》企業が人材確保のために、卒業年次になったばかりの学生の採用を早ばやと決めてしまうこと/《战前，粮商在稻谷收割之前即同农家估算产量，预先订购》企业为招揽人才而早早地决定录用刚到毕业年份的学生。

[例]青田買いをあまり派手にやられると、四年生が落ち着かなくなって困る/ 学生毕业前就公开拉去订就业合同，这样一来，四年级学生就不安心学习，怎么得了。

青菜に塩 垂头丧气。无精打采。萎靡不振。

《青菜に塩をふりかけると、しおれてしまうことから》すっかり元気をなくして、しおれている様子/《青菜撒上盐就发蔫》转指情绪低落，没精打采的样子。

[例]彼は入社試験に落ちて、青菜に塩の状態だ/ 他在公司招聘考试中没被录取，现在成天耷拉着个脑袋。

煽りを食う ①受強風袭击。②受打击。受到形势急剧变化的袭击。

①強い風の衝撃を受ける/ 遭受强风的袭击。

[例]爆風の煽りを食って、10メートルも吹き飛ばされた/ 受到爆炸气浪的冲击，被掀到10米之外。

②状況などの激しい変化の影響を受けて、痛手をこうむる/ 因形势等的急剧变化而受到严重打击。

[例]円高の煽りを食って経営が苦しい/ 受到日元升值的影响，经营艰难。

垢が抜ける〔亦写为“垢抜けする”〕 去掉了土气。洋气起来。时髦。文

雅。

容姿・身のこなし・服装などが都会風の洗練されたものになり、やぼったい感じがなくなる/受到城市生活的熏陶，人的音容笑貌、打扮、服饰等发生了变化，不再给人以土里土气的感觉。

[例]東京で大学生活をするうちに、あの子も垢が抜けてきたね/那孩子在东京经过一段大学生活，也变得洋气起来。

足掻きが取れない 一筹莫展。进退维谷。

局面を打解する手だてがなく、どうしようもない/没有打开局面的办法而一筹莫展。

[例]何とかしたいと思っても、この不景気では足掻きが取れない/尽管打算再努把力，在这种不景气的情况下，也让人一筹莫展。

赤くなる 面红耳赤。

顔に血が上る意で、恥ずかしくて居たたまれないような思いをする様子/热血涌到面部的意思。指感到羞愧，无地自容的样子。

[例]聞いている方が顔が赤くなるようなことを、人前でよく言えるね /听的人都感到害臊，亏他能在大庭广众面前说出口。

赤子の手を捻るよう 毫不费力。不费吹灰之力。轻而易举。易如反掌。

弱い相手を難なく負かす様子。また無抵抗なものに暴力を振るう様子/不费力气地打败软弱的对手，或对无抵抗力者施行暴力的样子。

[例]今日の試合は相手が弱過ぎて、赤子の手を捻るようなものだった/今天的比赛，对手太弱，不堪一击。

[类]赤子の腕を捻るよう

証を立てる 证明是清白的。

自分が潔白であることを証明する/证明自己清白。

[例]自ら真犯人をつきとめ、身の証を立てた/亲自查明真正的罪犯，证实自己是清白的。

[自]証が立つ

赤信号が付く 出现红色信号。出现危险信号。亮起了红灯。情况紧急。

事態が差し迫ってきて、緊急に対策を構じなければならぬ状態になる/情况紧急，处于必须迅速采取对策的状态。

〔例〕空梅雨に終わり、東京の水不足に赤信号が付くのは必至だ/梅雨季节却没下雨，东京势必出现供水不足现象。

赤の他人 あか たらん ひと 陌生人。毫无关系的人。

《“赤”は“純然たる”の意》縁もゆかりもない全くの他人/《“赤”为纯属、纯然的意思》指没有任何关系的陌生人。

〔例〕もう今日から君とは赤の他人だ/从今天起，同你没有任何关系。

赤恥をかく あかはじ 当众出丑。出洋相。丢人现眼。

《“赤恥”は“恥”を強めた言い方》人前でひどい恥をかく/《“赤恥”是“恥”的强调说法》在人前十分丢丑。

〔例〕みんな正装をして来ていたのに、私だけ平服でとんだ赤恥をかいた/大家都着礼服而来，唯独我穿了便装，真丢尽了丑。

飽きが来る あき 对…厌倦。对…腻烦。对…腻了。对…够了。对…生厌。

初めは満足していた物事が、長く接したり、し続けたりしているうちに嫌になってくる/当初感到满意的事物，经过长时间接触或做的过程中，变得厌烦起来。

〔例〕こういう派手な柄は、初めのうちはいいが、そのうちに飽きが来ると思う/这种鲜艳的花样，开始觉得挺好看的，可过一阵子就会觉得腻味起来。

秋風が立つ あきかぜ た 爱情淡薄。关系冷淡起来。

《“秋”を“飽き”にかけて言う》男女間の愛情が冷えてしまった様子/《“秋”是“飽き”的谐音》指男女间的爱情淡薄起来。

〔例〕交際が長過ぎたせい、あの二人の間には、秋風が立ち始めたようだ/或许是由于交往过久，两人间的感情好象开始冷淡起来了。

灰汁が強い あいくつよ 倔强的。俗气十足的。个性太强。

個性が強過ぎて、接する人々に抵抗を感じさせる様子。人の性質

や書いた文章などについて用いる/ 个性太强, 使接触的人觉得难以接受。用于人的品格、文章等方面。

[例]今年の新人賞を取った小説は、灰汁が強い文章だが、なかなか迫力のある作品だ/ 获得今年新人奖的小说, 虽然不够高雅, 却是一部相当感人的作品。

灰汁が抜ける 风雅の。不俗の。脱俗の。老练。圆通。

強い自己主張や独断的なところなどがなくなり、人に接する態度が洗練される/ 没有强烈的个人主张, 不独断专行, 待人文雅。

[例]あの人は管理職になったら、上と下からもまれたためか、灰汁が抜けてきた / 他走上管理工作岗位后, 或许是在与上下接触中受到了磨炼, 变得圆通起来了。

悪女の深情け 丑女情深。丑女情笃。不受欢迎的好意。

容貌の醜い女性は、美人よりも情がこまやかで、また嫉妬深いものだということ。俗に、ありがた迷惑の意にも用いる/ 相貌丑陋的女性比美女更重感情, 且妬忌心重。通常也用于好心却给人添了麻烦。

[例]悪女の深情けとやらで、彼は木村さんに惚れ込まれ、弱っているようだ/ 真是丑女爱得深, 他象是被木村小姐死缠住而无法脱身。

アクセントを置く 以…为重点。

全体の中で、特にそのことに重点を置く。また、全体の調子を引き締めるために、特にその部分を目立たせる/ 在全体中, 特意以某一事为重点, 或者在全体上进行压缩, 而特意突出某一部分。

[例]防衛力の増強にアクセントを置いた予算編成/ 制定以增强防卫力量为重点的预算。

悪銭身に付かず 不义之财跑得快。不义之财来得容易去得快。悖入悖出。

ばくちなどで得た金や働かずに得た金は、すぐに無くなってしまふものだということ/ 赌博等赢得的钱, 或不劳而获的钱, 因不知其来之不易, 便会胡乱花掉, 迅速化为乌有。

[例]競馬で大穴を当てたが、悪銭身に付かずで、あっという間に

使ってしまった / 买赛马彩票意外发了笔大财，但不义之财跑得快，转眼间就花得精光。

悪態をつく あくたい 恶语伤人。骂得不堪入耳。

相手を口汚なくののしる / 骂人骂得难听。

[例]借金を断われ、悪態をついて帰って行った / 借钱吃了闭门羹，就骂些不堪入耳的话回去了。

悪の温床 あく おんしょう 罪恶之源。罪恶的渊藪。

人を悪事に誘い込む原因を作り出している、好ましくない環境 / 产生诱使人做坏事之原因的可恶的环境。

[例]大都会の歓楽街は悪の温床だ / 大城市的花街柳巷是罪恶的滋生地。

欠伸を噛み殺す あくび か ころ 忍住哈欠。强耐着性子。控制住厌倦情绪。

出かかった欠伸を無理に止める意で、すっかり飽きてしまって、いやいやながら、やむを得ず何かをし続けること / 强忍自差点打出的哈欠的意思。指虽然十分腻烦，满心不高兴，但又不得不继续去做某事。

[例]校長の話を生徒は欠伸を噛み殺しながら聞いている / 校长的讲话，学生听得实在腻了，可还得强耐着性子听下去。

あぐらをかく 大模大样占着(某位置)。稳坐(某职位)。

《“あぐらをかく”のは楽な座り方であることから》安全な地位を得て、いい気になってのんきに構えている / 《由盘腿坐是一种悠闲舒适的坐姿转意过来》转指取得稳定的地位后便洋洋得意，悠哉游哉起来。

[例]彼が社長の座にあぐらをかいていられるのも長くはあるまい / 公司经理的宝座，他恐怕也稳坐不了多久啦。

掲げ足を取る あ かけ 抓小辫子。揭人之短。找碴儿。抓话把儿。吹毛求疵。

相手のちょっとした間違いなどを取り上げて、皮肉を言ったりする / 抓住对方的一点小毛病，就讽刺挖苦一番。

[例]あいつは人の言葉じりをとらえて、掲げ足ばかり取っている / 那家伙抓住人家的话把子就一个劲地奚落挖苦。

揚句の果て ^{あげく} ^は 到了最后。最后。终于。到头来。

《“揚句”は“挙句”の意で、連歌の最後の句あげくさんざん何かをした末に、最終的な事態に至る様子。多く、好きしくない、また、予想外の結果になる場合に用いる/《“揚句”即“挙句”，是日本连歌（日本诗歌体裁之一種）の最后一句》转指吃了苦头去做某事，到头来却落得这步田地。通常指不好的情况，或者用于出乎意料的结果。

[例]些細なことから口論となり、揚句の果ては殴り合いの喧嘩になった/因为鸡毛蒜皮的小事发生了口角，最后竟打起架来。

上げ潮に乗る ^{あしお} ^の 一帆风顺。乘势。顺利。

時機を得て、物事が順調に進む/事物碰上良机而顺利发展。

[例]事業は上げ潮に乗って急速に発展した/事业一帆风顺地迅速向前发展。

上げたり下げたり [亦说“上げ下げを取る”“上げつ下ろしつ”] 褒贬。又褒又贬。褒褒贬贬。忽褒忽贬。时而说好，时而说坏。

ある点を褒めたかと思えば、すぐ他の点をけなしたりして、どちらが本音なのかつかみどころない様子/刚褒过某点如何如何好，又立刻贬之多么多么差，难以捉摸到底哪个是真意。

[例]あの人あの美術評は上げたり下げたりで、結局何が言いたいのかわく分からない/他的美术评论，褒褒贬贬，到底想说什么叫人捉摸不透。

明けても暮れても ^あ ^く 日复一日。日日夜夜。朝朝暮暮。始终。每日。

毎日毎日変わりなく、同じような状態が続いたり同じことを続けたりする様子/日复一日总是保持同样的状态，或做同样事情的样子。

[例]彼女は明けても暮れても死んだ恋人のことばかりくよくよ考えているようだ/她朝朝暮暮一门心思思念着死去的恋人，老是想不开。

顎が落ちそう ^{あご} ^お 格外好吃。非常好吃。特别好吃。好吃极了。

非常に味がいいと感じる様子/觉得味道非常好的样子。

[例]おいしくて顎が落ちそうだ/味道可口，好吃极了。

[类]ほっぺたが落ちそう

顎が外れる あごはず 笑掉下巴。笑掉了牙。忍俊不禁。

おかしくて、笑いが止まらなくなるほど大笑いをする様子/滑稽可笑、令人忍俊不禁、要捧腹大笑的样子。

[例]彼の滑稽なしぐさ、みんな顎が外れるほど笑いこぼれた/他那滑稽的动作，大家看了都忍俊不禁，大笑起来。

[类]顎を外す

顎が干上がる あごひあ 无法糊口。吃不上饭。揭不开锅。

生計が立たなくなる/难以维持生计。

[例]僕らの商売は、こう雨ばかり続いたのでは顎が干上がってしまう/每天阴雨连绵，如此下去，我们的买卖连生活都维持不了啦。

[类]口が干上がる・鼻の下が干上がる

顎で使う あごつか [亦说“顎の先で使う”] 颐指气使。待人傲慢。

自分では何もせず、高慢な態度で人をこき使う/自己啥都不干，却以傲慢的态度支使别人。

[例]最近の子供は親を顎で使うような態度をとっている/近来，小孩子什么事都不干，却支使父母做这做那。

顎をしゃくる あご 颐指气使。随便支使人。

何かを指示するのに、無言で顎をその方に向けて示す。多く、見下した態度で相手に何かを指示する動作を表わす/指示别人做些事情时，不言语，只是动一动下巴示意一下。是一种以傲慢态度支使别人的表示。

[例]いくら部長でも、顎をしゃくって部下に用を言い付けるのはひどい/尽管是位部长，颐指气使地对待部下，也做得太过分了。

顎を出す あごだ 疲惫不堪。筋疲力尽。束手无策。

《長距離を歩いて疲れると、足が先に進まず、顎が前に出たかっこうになることから》疲れ果てて、歩き続ける気力を失う。また、仕事などがうまく進まず困り果てる/《长途步行疲劳时，脚未及迈出，下巴却早已伸出去了》，转指筋疲力尽没有气力走下去了，或者指工作